

湖沼等における外来水生植物の繁茂状況・ 管理的手法の調査

1 研修期間

令和元年9月3日～9月11日（9日間）

2 訪問先 先進事例を持つ2カ国の地域

(1) フランス（ペイ・ド・ラ・ロワール地域圏）…課題あり

- ・河川管理者
- ・自然公園管理者

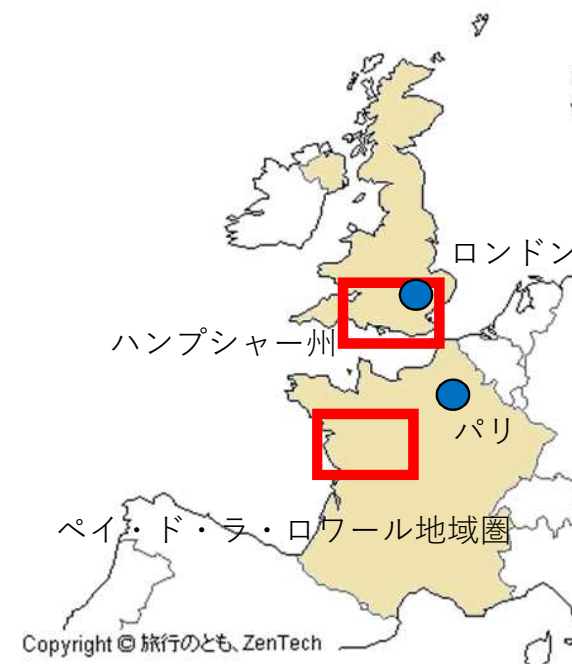
(2) イギリス（ハンプシャー州）…抑制実施

- ・研究機関
- ・中央省庁
- ・NPO団体

3 現状と課題、研修目的

外来水生植物であるナガエツルノゲイトウ・オオバナミズキンバイは繁殖力、分散能力が強く、大規模駆除に取り組む必要性がある。

既に大量に外来水生植物が繁茂し、計画的な駆除等が行われている諸国（イギリス又はフランス）において、湖沼等への侵入の経緯、生態系や水環境等への影響、効果的な駆除の方法など調査することで、印旛沼・手賀沼への適用を視野に入れた持続的・効果的な管理手法の検討に資する。



環境生活部

水質保全課 小田上 孝行

自然保護課 二上 謙一

県土整備部

河川環境課 片岡 駿

企業局工業用水部

千葉工業用水道事務所 佐倉浄水場 下村大志

4 調査結果

(1) フランスにおける取組と現状

河川流域の複数の自治体が協力して、外来水生植物（オオバナミズキンバイ）の駆除に取り組んでいるが、流域全体の網羅的な駆除はなされていない等、関係者間での連携が欠けることから繁茂範囲が拡大してしまっている例がある。

現在、水面での抑え込みは或る程度できているが、水域周辺の草原・湿地帯への繁茂が広がり、駆除が追い付かない。

(2) イギリスにおける取組と現状

法制度を確立させ、土地所有者に駆除が義務付けられるとともに、NPOが駆除の支援を行っている。国、土地所有者、NPOが連携して外来種の問題解決に対処するとともに役割が明確になっている。
それにより繁茂範囲の拡大の抑制に繋がっている。

(3) 両国における駆除方法

フランス、イギリスともに機械駆除、人力駆除が行われている。

5 まとめ

千葉県では取組方法はイギリスを参考にし、駆除方法は人力・機械を併用する。

(1) 駆除は計画的かつ、早期に実施している。

⇒ 地域・繁茂状況に則した駆除計画を作成

(2) 駆除後に再繁茂が確認されたら、繰返し駆除している。

⇒ モニタリング体制の整備

(3) 関係機関が連携し対処している。

⇒ 担当者間で情報共有できるような仕組みを構築

令和2年度から実施している外来水生植物の駆除に上記を反映させ、進めていく。

